



# 「継続は力なり」



吉野川市立鴨島小学校  
校長室だより 第32号  
令和5年11月1日

学校教育目標：自他の生命と人権を尊重し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動できる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

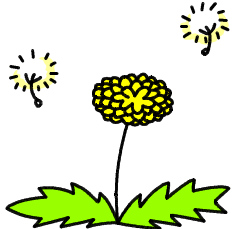
## 深まりゆく秋！<sup>ちよう しん せい りよ</sup>落ち着いた環境の中で ～ 澄心静慮 ～

『澄心静慮』とは「心を澄ませ、物事を深く静かに考える」という意味があります。これは校長室の額縁に飾られている言葉です。初冬に向け一年で最適の季節を迎え、落ち着いた環境の中、深い学びを追求してまいりたいと考えています。



### 「自ら考え、判断する力」の基盤となる「豊かな体験」

子供の「考える力」の基盤を育てるためには、様々な体験を通して、子供自身が「不思議だなあ」と感じる経験を重ねていくことが重要です。そのためには、文字や映像だけではなく、実際にいろいろなものに触れ、様々な失敗をして、思い通りにならないことをたくさん経験させなければなりません。



例えば、忙しい中、仕事や家事をやりくりして、休日に親子（家族）で動物園に出かけたとします。しかし、それがそのまま子供の「豊かな体験」に結びつくわけではありません。そこには、大人が忘れてはいけない大切な視点があります。動物園に行くために親はいろいろと準備をして、いよいよ当日動物園に行く途中に通った公園で、その子は地面に咲いているタンポポの花や綿毛に興味をもち、夢中になって綿毛を吹き飛ばし始めてしまいました。こんなとき、皆さんならどうされるでしょうか。もしかしたら、「何してるの？せっかくの動物を見る時間がなくなっちゃうよ。ほら、早く行かないと！」と、子供を急がせてしまうかも知れません。

しかし、「豊かな体験」という視点で考えてみると、コアラやキリン、ライオンを見ることよりも大切なポイントがここにあります。それは、日常とは違う環境の中で、子供たちの知的好奇心に刺激を与えることです。子供と一緒に、「たくさん飛んでいくね。どうして吹いただけであんなに遠くまで飛んでいくのかな？綿毛はどんな形をしているのだろうか？」などと話しかけてあげたら、たかだか30分程度の遅れは、スケジュール通りに進んだときよりも、はるかに有意義な時間になるに違いありません。

今の時代、子供たちに「豊かな体験」をさせることは、時間とお金がかかるイメージがありますが、決してそんなことはありません。ハイキングに行ったときに見た空の色が、いつも見ている空よりも鮮やかだと思ったら、子供は「どうしてこの空の色はこんなに青いの？」と驚きます。自分が知っている知識と自分の目の前の現実が違うとき、子供たちの目は好奇心に目覚め、輝き始めるのです。たとえ遠くに出かけられなくても、家の近くの公園や川の堤防などを一緒に散歩するだけでも、**子供の好奇心**はいろいろと触発されます。



大人が心に余裕をもって、**子供たちの「なぜ？どうして？」という問いに向き合い**、子供の「不思議」や「疑問」に対して、決して大人の「常識」で答えを出さずに、同じ目線で一緒に興味をもってあげながら**子供たちを「自分で考える道」へと導いてあげる**ことで、子供たちは自然と「考える力」の基盤を固めていきます。つまり「①興味・関心→②探究心→③思考力」という**学びへとつながっていく**のです。



これからの教育は、「ものを覚える力」より「**主体的に取り組む力**」や「**知識を使いこなす力**」、「**自分で考え、判断する力**」を育てることが重視されています。これらの力は一朝一夕に身に付くものではありませんから、学校でも家庭でも、「**豊かな体験**」を通して、子供たちの中に積み上げていきたいと思えます。

### ☆ 鴨島地区人権フェスティバルに向けて ～人権教育の集大成～ ☆

今年度は11月26日（日）に実施する予定です。午前中の開催とし、全学年体育館での発表とします。本番に向け子供たちは、運動会に続く発表の場として張り切っています。本校人権教育の集大成としての取組を是非ご覧ください。お待ちいたしております。



「校長室・学年」だよりは、HPではカラーで見ることができます→

鴨小QRコード